

MARINE HOTEL

Patenttinumero: JP53040989
Julkaisupäivä: 1978-04-13
Keksijä(t): KANO MASAYOSHI; others: 04
Hakija(t):: HITACHI ZOSEN CORP
Pyydetty patentti: ☐ JP53040989
Hakemusnumero: JP19760114916 19760924
Prioriteettinumero(t):
IPC-luokitus B63B35/72
EC-luokitus
Vastineet:

Tiivistelmä

PURPOSE: To provide movable marine hotel of good stability and accommodation by providing a well passing elevationally along the center line of a hull of concrete structure and a plurality of annular buildings at the periphery thereof.

公開特許公報

昭53—40989

⑤Int. Cl.¹
B 63 B 35/72

識別記号

⑥日本分類
B4 A 0庁内整理番号
2123—36

④公開 昭和53年(1978)4月13日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑧海上ホテル

大阪市西区江戸堀1丁目47番地
日立造船株式会社内

④特 願 昭51—114916

④発 明 者 村橋達也

④出 願 昭51(1976)9月24日

大阪市西区江戸堀1丁目47番地
日立造船株式会社内

④発 明 者 加納正義

同

竹治嘉幸
大阪市西区江戸堀1丁目47番地
日立造船株式会社内

同

川上喬一

④出 願 人

日立造船株式会社
大阪市西区江戸堀1丁目47番地大阪市西区江戸堀1丁目47番地
日立造船株式会社内

同

池田隆

④代 理 人

弁理士 森本義弘

明 細 書

1. 発明の名称

海上ホテル

2. 特許請求の範囲

① 箱船状の船体中心線に沿って上下に貫通する単数または複数のクエルを構成して該クエル底部に網を設け、上記クエル周囲の船体上に複数層の環状建物を構築したことを特徴とする海上ホテル。

② 箱船状の船体をコンクリート構造とし、その上に鉄骨または鉄板製の建物を構築してかかる特許請求の範囲第1項記載の海上ホテル。

3. 発明の詳細な説明

本発明は海上ホテルに関する。

一般に観光地のホテルは1シーズンしか満員にならず、シーズンオフには利用客が著しく減って年間利用率が低い現状である。そこでシーズンごとにホテルを需要地に移動させることができれば非常に都合がよい。この目的に沿う海上ホテルとしては、とくに船体の保留時における安定性を向

上させることが重要であり、そして利用客に対する海面又は海中観賞が建物全体に亘って行なえること、併せて安全なプールと魚類の生養の設備も必要となる。

本発明はかかる要望に応えて考案されたものである。

以下、本発明の一実施例を図に基づいて説明する。すなわち箱船状の船体(1)の中心線に沿って上下に貫通する2つのクエル(2)を構成し、該両クエル(2)の底部に網(3)を設け、上記クエル(2)周囲の船体(1)上に複数層の環状建物(4)を構築してなる。なお上記船体(1)をコンクリート構造とし、また環状建物(4)を鉄骨または鉄板製としてある。図中、(6)はクエル(2)内に配設された水中トンネルであり、該トンネル(6)の壁面の適当箇所には観察窓(図示せず)を設けてあって、このトンネル(6)を水中散歩道として利用する。

上記構成において、クエル(2)を設けることによって資材の節約をはかることができると共に船体(1)の建造を容易にし、かつ船体(1)の安定性を向上

させるものである。つまり 体(1)の移動又は動揺に際しては船体がクエル(2)内の水を剪断または移動させることとなるので、クエル中の水はその抵抗体として作用することとなる。したがってこれを備えない場合より船体の安定性を向上できる。またこのクエル(2)は、ホテル内部の観賞用として、あるいは解酸素向上のため役立てることができる。さらにクエル(2)の底部に網(3)を張ることによって、このクエル(2)内を安全な水泳プールあるいは養魚場として利用することができるものである。また船体(1)をコンクリート構造とすることによって腐食問題を解消して寿命を長くし、さらに聯状建物(4)を鉄骨または鉄板製とすることによってこの建物(4)を軽量かつ強固なものにしてある。またこれにより海上ホテルの重心が下の方になるよう配重してある。

以上述べた本発明の海上ホテルによれば、ホテル需要地に自航あるいは曳航によって移動させることができ、ホテルの利用効率を向上させることができる。また船体にクエルを設け、かつ建物を

(3)

聯状とすることによって建物の内側にも有効な居住性を与えることができ、このクエルの底部に網を設けてあることから、このクエルを利用してプールあるいは養魚場などに利用し利用客へのサービスも十分つくすることができる。さらに船体をコンクリート構造とすることによって寿命が半永久的になり、これと共に建物を鉄骨あるいは鉄板製として軽量化することから、重心が低くなり、丈夫であり、安定性がある。また台風などが近づく場合には、海上ホテルの利点を生じて安全な場所に逃げるができるものである。

4. 図面の簡単な説明

図は本発明の一実施例を示し、第1図は側面図、第2図は概略縦断面図、第3図は概略平面図である。

(1)…船体、(2)…クエル、(3)…網、(4)…聯状ホテル、(5)…トンネル

代理人 森 本 義 弘

(4)

図1

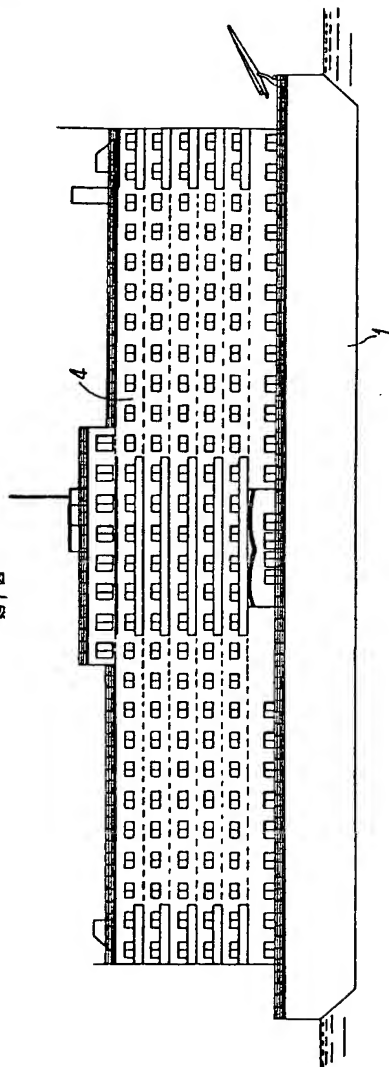


図3

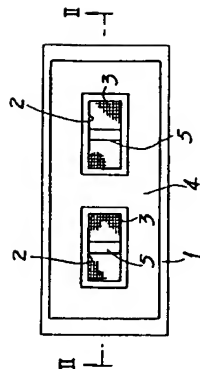


図2

